



熊本大学 博士課程教育リーディングプログラム  
「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」  
平成 24 年度～平成 29 年度

**Kumamoto University Program for Leading Graduate Schools  
HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) Program  
FY2012- 2017**

## 博士課程教育リーディングプログラムについて

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業である。3つの類型で平成 23-25 年度にかけて 62 件の採択があり、採択後 4 年目に中間評価、採択後 7 年目（最終年度）に事後評価を実施している。

## グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム(HIGO プログラム)

HIGO プログラムは、平成 24 年度に「博士課程教育リーディングプログラム」[複合領域型(生命健康)]に採択された新しいタイプの博士人材教育プログラムである。

本プログラムは、医学・薬学、2つの大学院で構成され、大学と産業界・行政機関などが連携して大学院教育を行い、健康生命科学のパイオニアとしてのリーダーを育成している。本プログラムの強みは、グローバルな取組み、学際性、学生の成長と多様なキャリアパスなどであり、平成 27 年度実施の中間評価において「A」評価を得た。

## 健康生命科学の専門性

医学と薬学の2つの大学院にまたがる教育プログラムにより最先端の健康生命科学を幅広く修得

**医学・薬学教育部開講科目** 研究室ローテーション  
 糖尿病、代謝、生活習慣病 複数の研究室における実習

がん免疫、酸化ストレス  
 分子遺伝学、社会医学  
 地域医療、創薬基盤、分子設計  
 薬物送達、医薬品臨床研究

**最先端研究セミナー**  
 国内外の一流の研究者によるセミナー



## 国際性・リーダーシップ

医学・薬学の専門知識を持つだけでなく、アジア諸国の人々と協力でき、社会で即戦力となる人材を育成

リーダーシップトレーニング講座



## 社会文化科学の素養

日本とアジア諸国の社会制度・価値観・歴史・文化の違いを理解し異文化コミュニケーション力を養成

**社会文化科学総論**  
 生命倫理学、公共政策学、組織経済学

**キャリアビジョン開発コース**  
 公共政策演習、技術マネジメント演習  
 異文化コミュニケーション演習

## 行政・産業からの視点

社会のニーズに対する意識、社会に対する責任の自覚とそれを果たすための資質を涵養

**行政セミナー**  
 厚生労働省、国境なき医師団、ユニセフ、経済産業省、熊本県、JAXA、JICA、宮崎県 ほか

**企業セミナー**  
 世界銀行、グラミン銀行、タカラバイオ、協和発酵キリン  
 日本科学未来館、アッヴィ、アクセンチュア株式会社、知的財産総合事務所  
 NEXPAT、第一三共、サントリー、スタンフォード大学 ほか

## 健康生命科学の次世代リーダーへ

近年、アジアは目覚ましい経済発展を遂げており、ヘルスケアへの関心も高まっている。また、多くの日本企業がアジアへ進出しており、今後、経済的・人的な交流がますます盛んになることが予想される。そのため、社会では、医学・薬学の専門知識を持つだけでなく、アジア諸国の人々と協力でき、即戦力となる人材が求められている。しかし、従来の理系大学院で育成される人材は、専門性や研究力が高いにもかかわらず、地域社会やアジアに対する意識が希薄であった。

そこで、本プログラムでは、医学・薬学などを基盤とする「健康生命科学」の知識を持ちつつ、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、グローバル（グローバル＋ローカル）に様々な課題を解決できる人材を育成している。

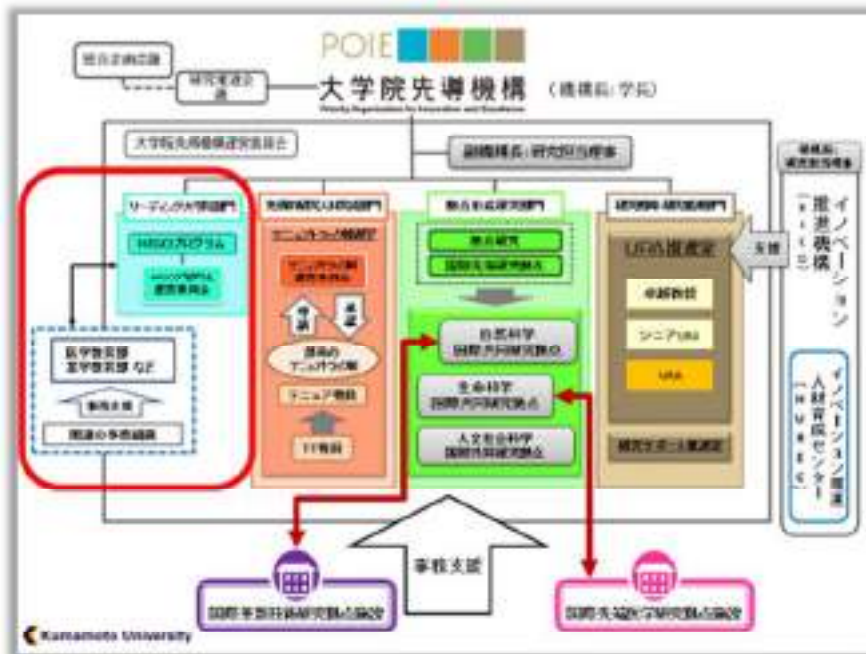
### 【本プログラムで育成される人材像】

- ・九州・アジア・世界で保健行政、医療行政、薬事行政に携わるリーダー
- ・アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー
- ・国際的に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー

## ■ プログラムの運営・支援体制

### (1) 熊本大学におけるリーディングプログラムの組織体制

リーディングプログラム（HIGO プログラム）は、本学の最先端研究、世界最高水準の研究を推進する組織である「大学院先導機構」の1つの部門として明確に位置付けられ、組織、人事等に関する重要事項については、大学院先導機構運営委員会等で審議を行っている。



(大学院先導機構図) ※赤枠がリーディング大学院部門

### (2) HIGO プログラムの運営体制

HIGO プログラムのカリキュラム、運営、およびプログラムの様々な施策については、プログラム担当教員で構成された運営委員会で審議している（毎月1回定期的開催）。

- プログラム生募集要項及び選抜試験合格者選考の審議
- 奨励金支給の審議
- セミナー・インターンシップ等の実施内容の審議
- 独創的教育研究活動経費応募者の審議
- ワーキンググループでの検討事項の審議
- 特任教員の採用に関する審議

平成 26 年度から運営委員会の下に「プログラム運営」、「カリキュラム・学生支援」、「学生獲得」、「学外連携・キャリア」の 4 つの WG を設置し、具体的な施策案の検討等を行っている。

1. プログラム運営                      プログラム運営体制等、評価 ほか
2. カリキュラム・学生支援            プログラムの実施・改善、各種経済的支援 ほか
3. 学生獲得                              国内・海外リクルート、広報、入試方法等
4. 学外連携・キャリア                学外組織との連携、キャリア開発（就職先等）ほか

さらに、HIGO プログラムのカリキュラムや教育体制、学生支援等について、具体的施策の策定のための調査・検討を各特任教員が分担して行うとともに、必要に応じて特任会議を開催し、情報の共有や施策案の検討に努めている。

➤ プログラム担当者

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	役割分担
(プログラム責任者) 安東 由喜雄	大学院医学教育部・医学専攻・教授	統括責任者
(プログラムコーディネーター) 小椋 光	大学院医学教育部・医学専攻・教授	プログラムの企画・運営の総括
竹屋 元裕	理事・副学長	プログラムの点検・改善
中尾 光善	大学院医学教育部・医学専攻・教授	行政連携 産業界連携
富澤 一仁	大学院医学教育部・医学専攻・教授	プログラム・カリキュラムの編成・点検・改善
大塚 雅巳	大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	行政・企業インターンシップ
甲斐 広文	大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	海外コーディネート、創薬研究指導
上野 真也	熊本創生推進機構・教授	公共政策教育、行政コーディネート
西中村 隆一	大学院医学教育部・医学専攻・教授	プログラムの点検・改善、行政連携、広報
小川 峰太郎	大学院医学教育部・医学専攻・教授	プログラムの点検・改善、カリキュラムの編成・運営
宋 文杰	大学院医学教育部・医学専攻・教授	カリキュラムの編成・評価、国際連携、広報
太田 訓正	大学院医学教育部・医学専攻・准教授	プログラム・カリキュラムの点検・改善、国際連携
荒木 栄一	大学院医学教育部・医学専攻・教授	行政連携
山縣 和也	大学院医学教育部・医学専攻・教授	行政連携、留学生支援
加藤 貴彦	大学院医学教育部・医学専攻・教授	行政連携、産業界連携
尾池 雄一	大学院医学教育部・医学専攻・教授	産業界連携
西谷 陽子	大学院医学教育部・医学専攻・教授	行政連携
入江 徹美	大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	行政インターンシップ、臨床研究指導、薬学専門講義
有馬 英俊	大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導、薬学基礎講義
丸山 徹	大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	企業インターンシップ、創薬・臨床研究指導、薬学専門講義
今井 輝子	薬学部・特任教授	産業界連携
大槻 純男	大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	産業界連携
石原 明子	大学院社会文化科学研究科・准教授	公共政策教育
高橋 隆雄	大学院先導機構・客員教授、名誉教授	社会文化科学教育のコーディネート
小野 友道	熊本大学顧問・名誉教授	医療行政教育、行政インターンシップ

久恒 昭哲	大学院先導機構・特任准教授	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
梅田 香穂子	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
Hari Prasad Devkota	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
大浦 華代子	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
田辺 寿一郎	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
佐々木 葉月	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
伊藤 尚文	大学院先導機構・特任助教	行政・企業・海外インターンシップ、 行政・企業セミナー
糸 昭苑	東京工業大学・教授	プログラム運営に関する助言・支援
河村 洋子	静岡文化芸術大学・准教授	社会文化科学教育
蒲島 郁夫	熊本県・知事	政治学教育、行政インターンシップ
大西 一史	熊本市・市長	政治・行政教育、行政インターンシップ
幸山 政史	熊本市・前市長	政治・行政教育
田川 憲生	熊本商工会議所・会頭 (ホテル日航熊本・会長)	政治学・経済学教育、企業インターンシッ プ
甲斐 隆博	熊本経済同友会代表幹事 (肥後銀行頭取)	政治学・経済学教育、企業インターンシップ
井芹 道一	熊本日日新聞社・編集委員	地方紙ジャーナリズムについての講義、 企業インターンシップ
佐々本 一美	株式会社同仁化学研究所・ 技術顧問	企業セミナー

※発生研所属教員：

小椋 光（分子細胞制御分野）、中尾 光善（細胞医学分野）、西中村 隆一（腎臓発生分野）、  
小川 峰太郎（組織幹細胞分野）

※発生研所属教員（旧 HIGO プログラム担当者）：

谷川 俊祐（腎臓発生分野）、古賀 友紹（細胞医学分野）

※旧 発生研所属教員（HIGO プログラム担当者）：

糸 昭苑（旧 多能性幹細胞分野）、梅田 香穂子（旧 多能性幹細胞分野）

### (3) HIGO プログラムの支援体制

プログラムの事務的な支援は、生命科学系事務課 リーディングプログラム推進チームが中心に行っており、プログラム生の選抜ならびにカリキュラムの実施等については、生命科学系事務課の医学系および薬学系の教務担当者と連携を図りながら行っている。また、文部科学省や日本学術振興会との対応窓口はマーケティング推進部研究推進課が対応しており、情報共有、連携等を密に行っている。さらに、人文社会科学系担当教員とキャンパスが離れているため、当該キャンパスに事務担当者を配置するとともに、発生医学研究所にも事務担当者を置き、担当者間の密接な連携を図りながら支援を行っている。



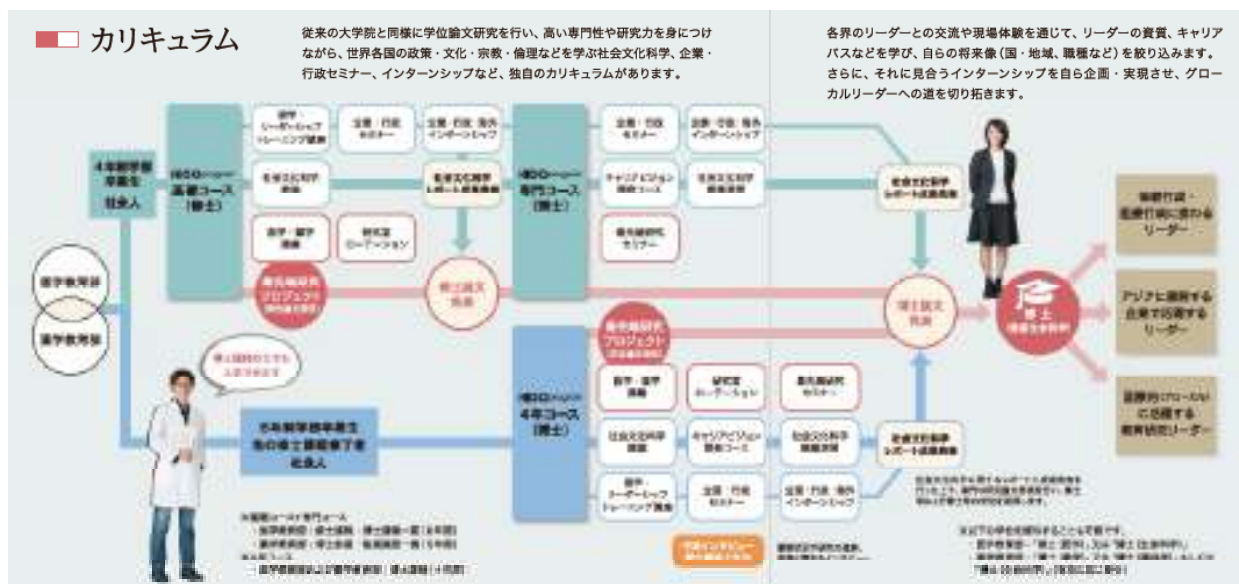
## ■ 学生数

プログラムの応募学生数、合格者数						
						(各年度3月31日現在)
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
プログラム募集定員数 (実数)	20人	20人	20人	20人	18人	12人
① 応募学生数	12人	17人	23人	32人	18人	16人
うち留学生数	2人	9人	17人	16人	12人	5人
うち女性数	4人	2人	10人	12人	6人	4人
② 合格者数	9人	12人	13人	24人	12人	12人
うち留学生数	2人	7人	9人	10人	8人	5人
うち女性数	4人	2人	6人	11人	5人	4人
プログラム合格率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.33倍	1.42倍	1.77倍	1.33倍	1.50倍	1.33倍
充足率 (合格者数/募集定員)	45.00%	60.00%	65.00%	120.00%	67.00%	100.00%

## ■ 独自の教育カリキュラムの実施状況

### (1) カリキュラム概要

従来の大学院と同様に学位論文研究を行い、高い専門性や研究力を身につけながら、世界各国の政策・文化・宗教・倫理などを学ぶ社会文化科学、企業・行政セミナー、インターンシップなどを実施している。



### (2) セミナー

#### ・最先端研究セミナー

平成24年度 6件 日本人5・外国人1、平成25年度 68件 日本人65・外国人3  
 平成26年度 60件 日本人59・外国人1、平成27年度 51件 日本人50・外国人1  
 平成28年度 41件 日本人40・外国人1、平成29年度 32件 日本人30・外国人2

・企業セミナー

平成 24 年度 1 件、平成 25 年度 18 件、平成 26 年度 10 件

平成 27 年度 8 件、平成 28 年度 8 件、平成 29 年度 9 件

世界銀行、グラミン銀行、タカラバイオ、協和発酵キリン、日本科学未来館、アッヴィ、アクセンチュア株式会社、知的財産総合事務所、NEXPAT、第一三共、サントリー、スタンフォード大学 ほか

・行政セミナー

平成 24 年度 2 件、平成 25 年度 11 件、平成 26 年度 10 件

平成 27 年度 8 件、平成 28 年度 8 件、平成 29 年度 8 件

厚生労働省、国境なき医師団、ユニセフ、経済産業省、熊本市、熊本県、JAXA、JICA、宮崎県 ほか

### (3) インターンシップ

・企業インターンシップ

行先	期間	参加人数	目的
株式会社新日本科学	2013.8.27-8.30	学生 8、教員 1	現場体験を通して、日本企業の理念、フィロソフィ、企業コンプライアンス、企画、経営、運営、経理、部門紹介と業務内容、社会貢献及び地域貢献、ニーズに関する生きた情報に触れることにより、グローバルな視点での実践的能力の向上を図り、即戦力を持つ人材を育成する。
	2014.9.8-9.12	学生 6、教員 2	
	2015.8.31-9.4	学生 8、教員 2	
	2016.8.29-9.2	学生 7、教員 2	
	2017.9.4-9.8	学生 7、教員 2	
化学及血清療法研究所	2013.9.2-9.6	学生 6、教員 1	現場体験を通じて、ワクチン開発について学び、即戦力として企業でも活躍できる博士人材となるために必要な要素は何かを学ぶ取る。また、熊本から海外進出を目指す製薬会社のグローバル化に何が必要で、自分に何ができ、何が必要かを考え、将来設計に役立てる。さらに企業運営や生産技術に関するグループワークを通して企業体系や事業についての理解を深める。
	2014.9.8-9.12	学生 12、教員 1	
	2015.10.26-10.30	学生 7、教員 2	
熊本日日新聞社	2013.9.9-9.13	学生 3、教員 1	地方紙記者の現場を体験し、マスコミ業界への理解を深め、情報収集力や文章力、サイエンス・コミュニケーションで重要な情報の整理の仕方と伝え方などに、多様な職種で共通するスキルや素養を学ぶ。さらにグローバルな課題（水俣病、地球環境、熊本の国際化など）について学び、解決策を提言する。
	2014.9.8-9.12	学生 2、教員 1	
	2015.9.10-9.16	学生 4、教員 2	
	2016.9.12-9.16	学生 5、教員 4	
	2017.9.19-9.25	学生 4、教員 3	
株式会社同仁化学研究所	2016.7.25-7.29	学生 2、教員 2	企業としての理念、コンプライアンス、経営、企画、運営、社会ニーズや、試薬業界の現状や今後の展望などについて学ぶ。また、これまで培ってきた知識や技術、経験等を参考に、新規製品開発に繋がる企画提案を行い、議論することによりグローバルな視点での実践的能力の向上を図る。
	2017.10.2-10.6	学生 2、教員 2	
川澄化学工業株式会社	2016.9.5-9.9	学生 11、教員 3	ものづくりの考え方や工程を具体的に学び、医療機器メーカーについて知識を深める。
	2017.8.28-9.1	学生 10 教員 3	

・行政インターンシップ

行先	期間	参加人数	目的
天草市	2013.8.22-8.26	学生 11、教員 4	健康生命科学分野において、地域と世界を結びつけ、地域医療の課題を解決できるリーダーになるための素養を身につける。住民、医療従事者、行政関係者の視点から過疎地の医療を学び、課題発見や解決策の提言につなげる。
上天草市	2014.8.22-8.24	学生 14、教員 6	継続的な多職種連携（医療従事者、行政、住民）の実践を通じ、上天草地域の医療に関する課題を発見し、理解を深め、具体的な解決策の提言を目指す。これまでに、慢性的な医療従事者の不足、“住民自ら健康を維持できるまちづくり”のための特定健康診査（特定健診）受診率向上、将来の天草地域の医療人材を確保するための解決策の提案などに取り組んでいる。
	2015.7.3-7.4, 7.25, 7.30, 8.22-23	学生 23、教員 9	
	2016.10.16-10.19, 11.23	学生 15、教員 4	
	2017.9.13-9.15, 11.23, 12.16, 2018.2.3	学生 6、教員 6	
水俣	2017.9.28-9.1	学生 10 教員 4	1950 年代に水俣で確認された水俣病を、メチル水銀による環境汚染と公害病としてだけでなく、住民、患者、行政への影響と対応を含めた複合的な問題として学ぶ。また、学んだことを水俣条約や世界の水銀汚染問題への検討へと発展させることで、グローバルな課題解決の視点を養う。

・海外インターンシップ

行先	期間	参加人数	内容
上海	2013.9.4-8.11	学生 10、教員 8	アジアのニーズや課題を自ら発見・解決するための素養を養い、世界で通用する国際感覚を身につける。さらに、医療関係施設や大学、行政機関、企業などの訪問や意見交換を通じ、中国の政治・文化・医療、日本企業のアジア進出等への理解を深める。
米国ワシントン D.C.	2013.9.29-10.5	学生 9、教員 1	国際機関（グローバルな視点に基づくトップダウン的アプローチ）や、民間支援機関（地域の文化的生活も考慮したボトムアップ的民間立案&主導アプローチ）を訪れ、各機関がどのように問題を解決しようとしているのかを現場で学ぶ。また、活動の意義・内容、成果などを、客観的に検証するため、大学での研修も行う。そして、それぞれのアプローチの問題・課題について議論し、より効率のよい問題解決への道筋を見出す方策を探る。
	2014.9.18-9.26	学生 8、教員 1	
	2016.11.26-12.3	学生 2、教員 2	
	2017.11.25-12.3	学生 4、教員 2	
テキサス大学エルパソ校	2014.9.21-9.27	学生 4、教員 1	資源制約下でも高いパフォーマンスを発揮するための逸脱的行動(ポジティブ・ディビアンス(PD))をキーワードとし、地域社会などにおいて、より良い成果をもたらすためのコミュニケーション手法やリーダーシップについて学ぶ。
ベトナム	2015.9.7-9.20	学生 13、教員 3	現地の歴史や文化、政治、経済、医療保健システムを学ぶ。また、少数民族集落の伝統医療企業における OJT 研修や生活体験を通じて、アジア地域の持つ多様性を理解し、現地の課題やニーズを自ら発見・解決するための素養を身につける。



バングラデシュ	2016.2.27-3.6	学生 7、教員 1	グラミンググループが主催する International Research Opportunity Program 研修を通じて、首都ダッカと農村地域において、貧困の現状や撲滅について考え、新しいビジネスアイデアや経済開発について学び、課題発見・解決能力を養う。
オーストリア共和国	2016.6.29-7.6	学生 4、教員 2	さまざまな行政・住民組織を訪問しヒアリングを行い、オーストリアの都市部・農村部における諸問題の解決方法や社会資本の在り方を学ぶ。
ネパール	2016.9.25-10.2	学生 8、教員 2	ネパールの歴史や政治・文化、科学技術の実態、医療保健システムを学ぶ。さらに、政府、大学、民間組織を訪問し、地震復興に向けた取組み、医療政策、疾患・伝統医療の研究の動向を理解し、現地の課題やニーズを発見・解決する素養を身につける。
	2017.8.18.8.25	学生 9、教員 2	
フィリピン	2017.1.19-1.27	学生 3、教員 2	公衆衛生的な問題を解決することを究極の目標とし、現地住民や関係団体等の聞き取り調査等を通じた現状把握、議論、課題抽出を行い、解決策を探る。一方、公衆衛生問題をマクロな視点で捉えるために、マニラ市 WHO 西太平洋事務所に問題の現状や解決策等について意見交換を行う。これらにより、グローバル社会における課題設定・解決能力の向上を図り、コミュニケーション能力や交渉力について学ぶ。
	2018.1.24-2.1	学生 9、教員 2	

・企画提案型インターンシップ

場所等	期間	参加人数	内容
ヤマエ久野株式会社(ドイツ)	2015.10.8-10.16	学生 2	起業を目指す学生が、ビジネスの基本知識、スキルを学び、海外における事業展開の現場を体験し、九州・アジア・世界でグローバルな人脈を構築する。
米国ニューメキシコ大学	2015.5.30-8.9	学生 1	技術移転、新技術のマーケティング戦略と開拓、地域貢献に関する業務に関する知識やスキルをOJT形式にて学び、将来のキャリアに活かす。
	2016.6.7-6.17	学生 1	
	2018.1.22-2.16	学生 1	
EY アドバイザリー株式会社・新日本有限責任監査法人	2015.9.3-9.24	学生 1	コンサルティング企業におけるOJT型インターンシップを実施し、①情報収集力、文章力およびタイムマネジメント力に加え、研究開発プロジェクトの成果を評価し、将来展望を検討する力を養う②行政の施策の一部に触れ、行政機関の視点や産学連携の実態を学ぶ③医療政策・システム構築に関わるコンサルティング業について学ぶ
	2016.8.4-8.12	学生 1	
	2018.2.12-2.24	学生 1	
上天草市役所	2016.7.20-9.15	学生 1	天草地域で継続的に実施されている行政インターンシップを通じて、上天草市の行政の課題のひとつが「特定健康診査の受診率向上」であることを知ったので、上天草市の住民の健康状況を知り、受診率向上に向けた新たな糸口を模索するため、保健行政の実際の業務を体験する。さらに、健康・保健分野の行政の仕事を知り、将来の就職先の選択に役立てる。
杉養蜂園	2017.12.4-12.8	学生 1	Understanding the production processes of some "Healthy" food products, regulatory framework for their scientific and marketing approvals, consumer influences and

			marketing approvals, consumer influences and impact on public health.
--	--	--	---

#### ・公募型インターンシップ

場所等	期間	参加人数	備考
シンガポール国立大学	2014.7.14-7.25	学生 2	シンガポールの政治・経済、ビジネスやアントレプレナーシップについて学び、アジアでのビジネス・起業に関する素養を身につける。
	2015.7.5.-7.19	学生 1	
ハイデルベルク大学	2015-2.9-2.20	学生 1	実践技術、チームマネジメントなどを学び、資源不足な途上国におけるより高品質の医療サービスの提供を目指す。
JICA フィジー事務所	2016.1.24-2.28	学生 1	地域行政、国際機関、NGO 等で、公衆衛生の諸問題を解決するための、現場体験、効果的な広報スキルの習得、グローバルな人脈の構築を行う。
コペンハーゲン大学	2016.8.1-8.12	学生 1	サイエンス・コミュニケーションに係る基本的・応用的知識を習得することを目指す。
シリコンバレー	2016.8.26-9.26	学生 1	海外で活躍する日本人の指導による実習やイノベーション研修、企業・大学の訪問を通じて、異なる文化や価値観、情報発信に必要なスキルを習得する。
ドイツコストゥス・リービヒ大学	2017.7.15-8.12	学生 1	知的財産管理・運用における科学者の役割と、国際社会の現状を理解することを目指す。
厚生労働省	2017.8.21-8.25	学生 1	①難病に関する行政の指針や行政の業務内容の理解、②難病対策への企画立案における職員の分析・課題抽出方法の学習と課題設定および課題解決能力とコミュニケーション能力・交渉能力の向上、③自身の研究との関連性を意識し、業務に取り組むことで今後の研究に活用することを目指す。
文部科学省	2017.9.19-9.29	学生 1	「HIGO プログラムでの経験」、「研究」、「社会貢献」の3つを結びつけることを目的に、研究振興局ライフサイエンス課で、バイオテクノロジーの施策と今後の課題に関する会議に参加する。
	2018.2.26-3.9	学生 1	自身の研究、専門性や社会文化科学で学んだ考えを活かして業務を行い、社会におけるライフサイエンスの在り方を学ぶ。
スウェーデン・フィンランド	2017.11.15-11.22	学生 1	先端的な取組を行うスウェーデンの予防歯科および口腔保険の現状を学び、医系技官として活躍するために必要な幅広い知識を習得することを目指す。

#### (4) 社会文化科学に関して

##### ・キャリアビジョン開発コース

専門コース・4年コース（博士課程）では、平成26年度から生命倫理、アジアの文化・宗教、医療経済、政治、行政について学ぶキャリアビジョン開発コースを開講し、海外からの講師を招聘し、海外研修なども行った。

1. 異文化コミュニケーション演習 I-III：アジア諸国の生命倫理および文化、宗教について学ぶ。
2. 公共政策演習 I-III：諸外国の政治・行政制度や医療・健康分野の政策形成について学ぶ。
3. 技術マネジメント演習 I-III：医療ベンチャーの起業の事例をふまえ、技術移転や起業について学ぶ。

##### ・社会文化科学に関する成果をまとめたレポートの指導および審査

各教育部における修士論文及び博士論文を提出する前に、社会文化科学に関する成果をまとめたレポートを作成し、社会文化科学担当教員の審査で合格基準に達している者について公開発表

を行う。レポートの課題は、HIGO プログラムにおける社会文化科学の講義・演習、セミナー、インターンシップなどを通じて学んだ成果をふまえて設定する。これまでの社会文化科学に関するレポートのテーマは以下のとおりである。

【平成 25 年度】

『基礎コース』①Reducing Health Disparities: collaboration of industry, academia and government、②地域に適した医療の形—天草の地域医療の現状と課題—、③医療・福祉財政と政策について、④健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health) について、⑤医療の発展の裏に潜む格差への取り組み

【平成 26 年度】

『基礎コース』①Economic and Political Inequality and its Effects on Quality Healthcare、②日本の博士課程教育に関する考察—博士人材が産業界でより活躍するためには—、③文化的、政治的対立に及ぼす音楽の歌詞および歌詞以外の要素の影響、④人口減少地域における薬剤師の役割と課題 “天草地域を事例に”、⑤遺伝子治療が目指す方向性

【平成 27 年度】

『基礎コース』①Role of Medicinal Plants in Developing Countries: Economic Development by Access and Benefit Sharing、②The Ethics on the Use of Industrial-Food Chemicals and、③Its Respective Implications to Environmental Preservation and Human Interests、④Corruption in the Health Sector: An Issue of Utmost Importance、⑤高齢者の終末期選択、⑥我が国における水俣病認定基準を巡る課題 “昨今の水俣病認定審査の妥当性について”

『4 年コース』①Cross-Cultural Comparison: American Apache and Bangladeshi Santal Life、②技術移転—日本における現状 米国から学ぶ技術移転の活性化、③カナダおよび日本の技術移転の現状—マギル大学と熊本大学をケーススタディとして—、④認知症の根本治療薬開発における政治・経済・社会要因研究

【平成 28 年度】

『基礎コース』①医療面接と患者のコミュニケーションについて、②フェアトレードと多文化共生社会、③Induced abortion in Japan、④トリアージと災害時のその実施について、⑤被災地支援から見えるコミュニケーションの工夫の医療現場への応用、⑥ハラル対応と宗教理解、⑦Vietnam は西洋医療と伝統医療が融合するカントリーモデルになりうるか、⑧災害と地域コミュニティ - 日本とアジア諸国における現状と可能性 -

『専門コース』①八丁原地熱発電所、わいた地熱発電所をモデルとした地熱発電開発におけるリスクコミュニケーション方策、②赤ちゃんポストと内密出産制度、③東洋医学と西洋医学の融合

『4 年コース』①科学技術新興と国立大学改革政策に関する研究

【平成 29 年度】

『基礎コース』①大正および昭和初期の震災時におけるメンタルケア活動から学ぶ宗教団体の役割と今後の発展、②海外と比較した日本の臓器移植が抱える課題の考察、③Strategic Approaches to Overcome Depression Through Cultural Components in Asian Countries、④遺伝子検査の日本における課題

『専門コース』①現代社会における選択的夫婦別姓制度の必要性、②Career paths of overseas Chinese students、③日本および世界において、COPD 予防のための「完全禁煙」は果たして可能か？～COPD の原因である喫煙の医学、経済、文化、宗教的な側面～、④日本における末期腎不全の治療選択に対して一透析技術、法制度、文化・宗教観がもたらす影響

『4年コース』①Medical Residency Training in China、②Prospects and possibility of API production in Bangladesh through technology transfer、③A Study on Personal Data Protection in the Age of Big Data、④Halal Food & Tourism: Opportunity and Challenges for Japan、⑤Palliative Care in Bangladesh: Importance and Current Status、⑥Spreading of multidrug resistant bacteria in community. Global concerns and local challenges、⑦グラミン銀行とイスラム金融、⑧漫画作成要領はプレゼンテーションスライドのデザインに応用できるか？

## ■充実した学生支援

### (1) 学生との意見交換、学生からの意見・要望等の聴取

HIGO プログラムは、専門分野の枠を超えた広範な、新たなプログラムであるため、コース生が安心して履修できるように配慮するとともに、プログラムに対する学生の意見や要望等を聴く機会を確保するため、各コース生に2人の担当教員をメンターに指定し、随時相談を受けられるような体制としている。また、学生が自主的に行っている学生ミーティングに特任教員が出席し、直接学生の意見を聴取するなど、適宜、学生からの要望等を聴いている。また、毎年6月には特任教員によるアンケートと面談を行い、学習目標の修得度や将来像、HIGO プログラムへの要望などを聴取し、プログラムの改善に活かしている。

### (2) 学生への経済的支援

- ・**奨励金**：HIGO プログラムの学生が学修研究に専念できるよう、希望者に対し、奨励金の給付を行っている。

年度	支給金額		受給者内訳	
	修士 博士前期課程	博士 博士後期課程	修士 博士前期課程	博士 博士後期課程
平成24年度	140,000円／	200,000円／	5	4
平成25年度	140,000円／	200,000円／	13	7
平成26年度	200,000円／	200,000円／	11	20
平成27年度	200,000円／	200,000円／	11	34
平成28年度	200,000円／	200,000円／	11	39
平成29年度	200,000円／	200,000円／	7	46

- ・**大学院生独創的教育研究活動経費**：HIGO プログラムの学生が主体的に独創的な研究を遂行するために、プログラムの目的に合致した優れた研究提案を行った学生に対して独創的教育研究活動経費の支援を行っている。

【平成25年度】採択者	4名	支援総額	4,000,000円
【平成26年度】採択者	10名	支援総額	9,250,000円
【平成27年度】採択者	15名	支援総額	12,000,000円
【平成28年度】採択者	15名	支援総額	10,745,240円

【平成 29 年度】採択者 14 名 支援総額 9,798,220 円

- **研究成果発表支援**：HIGO プログラムの学生の研究成果発表に係る、次の費用の支援を行っている。① 学術集会参加に係る参加費および旅費、② 論文の英文校正費用および論文投稿・掲載費用、③ その他、研究成果発表などに特に必要な費用

【平成 25 年度】 国外学会 9 件 国内学会 23 件  
 【平成 26 年度】 国外学会 14 件 国内学会 33 件  
 【平成 27 年度】 国外学会 32 件 国内学会 86 件  
 【平成 28 年度】 国外学会 20 件 国内学会 61 件  
 【平成 29 年度】 国外学会 34 件 国内学会 63 件

- **研究等旅費支援**：研究能力の向上につながる国内・国外におけるプログラム、プロジェクト等への参加を奨励するため、平成 27 年度から当該プログラム等にかかる経費の一部を支援している。

【平成 27 年度】 4 名 284,144 円  
 【平成 28 年度】 8 名 2,191,324 円  
 【平成 29 年度】 2 名 704,388 円

## ■ 学生の活躍

### (1) 研究成果

		平成 25 年 度	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度	合計
学会発表	国際学会	9	14	32	20	34	109
	国内学会	23	33	86	61	63	266
学会での受賞		3	4	19	15	18	59
論文発表（査読付き）		8	8	7	17	37	77
成績優秀者賞		-	1	-	2	2	5

### (2) その他学生の活躍

日本学術振興会特別研究員への採用状況

平成 27 年度 3 名、平成 28 年度 1 名、平成 29 年度 4 名

### (3) 修了者の就職先

年度	就職先	職種
平成 27 年度	株式会社大塚製薬工場 研究開発センター	研究開発職
	バングラデシュ・ラージシャーヒ大学	講師
	学校法人大阪滋慶学園 国際教育事業部	職員
	カナダ・マギル大学	研究員
平成 28 年度	日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所	研究開発職
	第一三共株式会社 製薬技術本部	研究開発職
	株式会社サイディン	起業

平成 29 年度	化学及血清療法研究所	理系総合職
	国立水俣病総合研究センター 環境・疫学研究部	特別研究員
	ジョージア州立大学医学研究所	ポスドク研究員
	山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部	助教
	北京安貞医院	医師
	和歌山県立医科大学 先端医学研究所	助教
	セントルイス・ワシントン大学医学部	ポスドク研究員
	湧永製薬株式会社	研究開発職
	エジプト・近代科学芸術大学	講師

## ■ 特任教員の活動

平成 25 年度から 6 名の特任教員を採用、平成 26 年度には、新たに外国人の特任教員を採用した。平成 27 年度から社会文化系の特任教員を採用し、総計 8 名の特任教員（うち 2 名は外国人教員、うち 3 名は女性教員）体制とし、プログラムの運営及び学生支援の強化に努めている。なお、特任教員の主な活動は以下のとおりである。

○セミナー講師の招へい、○インターンシップ先の開拓、折衝、学生引率等、○キャリアパスの調査、提案、○学生支援：セカンドメンターとして面談等による直接支援、アンケートの実施など、○英語力強化の支援：学生との英語によるランチミーティングの定期的実施、○国内・海外リクルート：国内の他大学、海外の大学等へのプログラム説明、○広報：PR 用 DVD の制作、Facebook の運用、ニュースレターの発行、HP の充実など、○その他プログラムの充実に向けた取組：課題の検討・対応、WG への参画、他大学のリーディングプログラムとの連携など

これまでに特任教員の貢献が認められ、熊本大学教育活動表彰を 2 回受賞している。

### ◆平成 27 年度教育活動表彰（平成 25 年度から平成 26 年度にわたる教育実績期間）

表彰区分 一般表彰（入賞）

被表彰者 久恒昭哲、梅田香穂子、石田 聖、谷川俊祐、倉内祐樹

### ◆平成 29 年度教育活動表彰（平成 26 年度から平成 28 年度にわたる教育実績期間）

表彰区分 若手表彰（奨励賞）

被表彰者 盧 溪、Hari Prasad Devkota、大浦 華代子、田辺 寿一郎

## ■ 発生医学研究所・HIGO プログラム共催で開催したシンポジウム等

### • KEY Forum: From Stem Cells to Organs

2014.9.4-5 熊本市医師会館

### • 生命科学における研究倫理及びその教育プログラム

2015.3.3 熊本大学医学教育図書棟

講師：市川 家國（信州大学）



- **科学英語プレゼンテーション講座 心をつかむ！研究者のための科学プレゼンテーションの極意**

2017.7.5-7.6 発生医学研究所

講師：広海 健、平田たつみ、Todd Gorman（以上、いずれも国立遺伝学研究所）

- **KEY Forum 2018 Stem Cell Traits and Developmental Systems**

2018.1.11-12 熊本市国際交流会館